に代わるエネルギー源への切り替えなど、最低百億ドルはかかるとみられている。

◆◆日系カナダ人に謝罪を
◆下院特別委員会が勧告

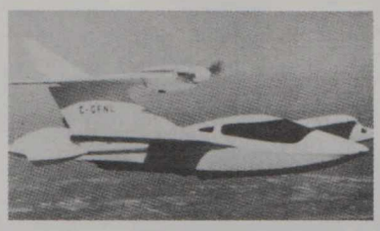
戦時中から戦後にかけて日系カナダ人が受けた扱いなどについて、昨年六月以来、全国各地で公聴会を開き、審議を重ねていた連邦下院の「カナダ社会における少数民族参加に関する特別委員会」は、三月末、日系人への謝罪と補償を勧告する報告書を提出した。

報告書は、「勧告第二十三号」の中で、戦時中の日系人の強制収容は「長い人種的不寛容の伝統に根ざし、それに伝聞と戦前の全国的な狂信的愛国主義が油をそそいだ」結果だと述べ、漁船や土地、住宅などが没収され、のちに市場価格よりはるかに安い価格で売却されたこと、ブリティッシュ・コロンビア州に住んでいた日系人二万二千人のうち約二万一千人が強制的に立ち退かされ、内陸部へ送られて悲惨な生活を強いられたこと、日本国籍を持つ人々だけでなく日系のれっきとしたカナダ市民までも日本に〝送還〟されたこと――などを明らかにしている。

報告書は、さらに、今年一月にウィニペグで開かれたカナダ日系人協会全国補償委員会が連邦政府に公式謝罪を求め、補償について政府と交渉する旨の決議を採択したことに触れ、日系カナダ人に対する「人道的、歴史的過失を正すことは困難だが、政府はそのための努力をすべきである」として、連邦議会に謝罪と補償への交渉を勧告している。

◆◆自家製の飛行機はいかが？
◆組立セット一機で四万ドル

カナダには、小型飛行機のセットを買って、それを一年から場合によっては三年以上もかけて組立て、乗り回す人がかなりいる。こうした自家製飛行機ファンのために、オンタリオ州北部の町ハリバートンにあるシーウインド・インターナショナル社が、グラスファイバー製の四人乗り水陸両用軽飛行機（写真）を開発した。



組立てやすく、しかもスピードがでるということで、構造的にはきわめてほっそりとしており、エンジンは尾翼からつきだしたバイロン（目標塔）にぶら下がっている。

すでに完成したプロトタイプ機は、時速二百七十キロ、上昇速度毎分二百九十メートル、貨物搭載量四百キロ、航続距離一千キロ以上という性能をもっているという。

主な構造部分は、すべて前もって作られており、あとはそれを組立てるだけでいいが、それでも一人で一千時間はかかる。値段は、部品だけで一万八千ドル、エンジンやプロペラ、計測機器を合わせると約四万ドル（七百万円）。

◆◆テリドン、熊本県が導入
◆赤坂の商店街でも利用

通産省のテクノポリス構想に名乗りを上げている熊本県が、県内への企業誘致を積極的に推進するため、カナダの双方向文字図形情報システム「テリドン」を利用することになった。

これは文字と画像を使って県の工場適地、産業、そしてテクノポリス構想を説明しようというもので、県東京事務所と東京・浜松町の東芝ビル内にパーソナル・コンピューターを置いて、企業の担当者などの利用に供している。

また東京・赤坂の一ツ木通り商店街では、五月下旬からテリドンによる店舗紹介サービスを始める。

さらに、近畿日本鉄道では、テリドンを利用して駅頭やホテルで各種文字図形情報を提供する、ターミナル情報システム計画を進めている。

利用者は街頭に設置した端末機を操作して、各飲食店の特徴や値段、営業時間、場所などを手軽に知ることができるほか、商店街の各種情報やスポーツ・ニュースなども呼び出せるという。

◆◆今年はカナダ観光年
◆全国で三十以上の行事

今年は、ジャック・カルチエのカナダ到着四百五十周年を記念する行事など、カナダ全国で三十以上の記念祭が催される。

そこでカナダ旅行業協会では、政府の協力を得て、一九八四年を〝カナダ観光年〟と定め、これらの行事をこの統一テーマで展開することになった。

カナダ大使館の観光部（トラベル・インフォメーション）でも、カナダ太平洋航空（CP）と協力して、一般からカナダ旅行のアイデアを募集するコンテストを実施した。

◆◆日本カーリング協会が発足
◆初の全国大会は池田に栄冠

一九八八年にカルガリーで開かれる冬期オリンピックの公開競技になったカーリングの全国組織、日本カーリング協会が、二月二十五日、設立された。会長には森鼻・北海道カーリング協会会長（北海道銀行頭取）が選任された。札幌市の北海道カーリング協会（道銀ビル内）が日本協会の事務局を兼ねる。

日本協会の設立に続いて、真駒内アイスアリーナ（札幌）で第一回日本カーリング選手権大会が開催され、池田カーリング協会のレッドパジャマ・チームが初の日本一となった。

◆◆さけ学習を通じて交流へ
◆北海道とカナダの子供達

北海道とカナダの間で、さけについて学習している学校同士の交流が進められようとしている。

さけ交流の話を持ち込んだのは、カナダさけ保護協会（バンクーバー）のジム・マレー氏ら。昨年二月のことである。昔からさけの産地として有名なブリティッシュ・コロンビア州では、さけ保護運動が盛んで、特にバンクーバー周辺ではバンクーバー・サン紙の全面的な協力を得て、六百近くの小、中学校が、さけの生態などに関する学習を取り入れている。

北海道でも、二十数校の小、中、高校がさけ学習を実施しており、北方圏センター、さっぽろサケの会、道教育委員会が「北海道・カナダさけ学習交流推進連絡会議」を設けて交流実現へ計画を進めてきた。カナダ側から交流希望校のリストも届いており、今年からいよいよ手紙、作文、写真、資料の交換、生徒の相互訪問などが始まる。

――・――・――・――

訂正　カナダ大使館発行の背景説明レポートNo.36「カナダの公共企業体」で、財務運営法（Financial Management Act）となっているのは、財政管理法（Financial Administration Act）の間違いですので訂正します。